



佐藤全孝(さとう・ぜんこう) ステップス初個展である。佐藤は今回、キャンバスに油彩、最大で117×117cmの中型から最小で22×15cmの小品、その他様々なサイズの作品を計15点出品した。タイトルは《白の習作》《祭壇の習作》《赤の習作》《白の記録》《黒の記録》《祭壇》《忘れないように》と、シンプルで詩的でありながら、読み直すと最小限の口吻に留めている印象を与える。これまでに私が全く見たことのない作品だ。上下左右が逆ではないかと思えばいざ逆にすると成り立たないし、絵具をぶちまけるアクションでも緻密に描き込む具象でもな

いのだがその両者でも在り得る。画面に果てしなく奥行きが存在するかと思うと手前に浮き上がってくる。従来の「絵画」の発想で佐藤の作品の本質は捉えられない。否、逆に従来の「絵画」の発想の本来の姿、描く思想に見る者が立ち返れば、作品の根底に触れることができるのかも知れない。幾重にも層を成す現実という名の空虚と想像。人間は記憶を携える為、心の織に深い襞を遺す。その襞を無視して描くことに没頭し、その上で自己を振り返ることによって絵画は個人の枠を超えて普遍に届くことなく生きる者達の心の襞へ埋もれていく。次の佐藤が待ち遠しい。

